

令和2年度 シラバス

科目名	一般臨床医学	講義	(30)時間	後期	第Ⅱ学科2学年	講師	中村 正孝
実務経験	医師として19年以上の実務経歴あり						
到達目標	医学一般に関する学識を得る						
履修上の注意	復習は各自で行うこと。						
成績評価方法	試験100%						
教科書	PT・OTのための一般臨床医学 医歯薬出版						
参考書	特になし						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	救急救命学、外科学	救命救急医療、外科総論
第2週目	脳神経外科学	脳神経外科概論
第3週目	皮膚科学	皮膚疾患
第4週目	泌尿器科学	泌尿器・生殖器疾患
第5週目	産婦人科学	婦人科・産科疾患
第6週目	眼科学、耳鼻咽喉科学	眼疾患、耳鼻咽喉科疾患
第7週目	総合診療科学	特殊な医学、プライマリ・ケア
第8週目	まとめ	その他疾患
第9週目		
第10週目		
第11週目		
第12週目		
第13週目		
第14週目		
第15週目		
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	内科学	講義	(30)時間	後期	第Ⅱ学科2学年	講 師	中村 正孝
実務経験	医師として19年以上の実務経歴あり						
到達目標	代表的な内科疾患の病態生理・症状・治療を理解する。						
履修上の注意	復習は各自で行うこと。						
成績評価方法	試験100%						
教科書	標準理学療法学 作業療法学 内科学(医学書院)						
参考書	特になし						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	総論	内科学概論、内科診断学
第2週目	循環器	循環器疾患総論、各論
第3週目	呼吸器	呼吸器疾患総論、各論
第4週目	消化器、肝・胆・膵	消化器疾患、肝・胆・膵疾患 総論、各論
第5週目	血液、代謝	血液疾患、代謝疾患 総論、各論
第6週目	内分泌、腎	内分泌疾患、腎疾患 総論、各論
第7週目	免疫・アレルギー、膠原病	免疫・アレルギー性疾患、膠原病 総論、各論
第8週目	その他	その他の疾患と総復習
第9週目		
第10週目		
第11週目		
第12週目		
第13週目		
第14週目		
第15週目		
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	整形外科学 (60)時間	前期	第Ⅱ学科2学年	講師	藤井 隆文
実務経験	理学療法士として19年以上の実務経験あり				
到達目標	理学療法士として臨床で生かせる整形外科に関する基礎知識と評価・診断技術を学ぶ				
履修上の注意	次回講義分野における解剖学、生理学の予習をして下さい。				
成績評価方法	学科試験、出席状況(学院の規定に準ずる)				
教科書	標準整形外科学(第13版),医学書院				
参考書	プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論/運動器系 筋骨格系のキネシオロジー,シンプル生理学 など				

週 数	項 目	授業内容
第1週目	基礎知識	骨、関節、関節軟骨、筋・神経について
第2週目	基礎知識	関節軟骨、筋・神経、疼痛について
第3週目	診断総論	主訴,主症状から想定すべき疾患,整形外科的現症の取り方
第4週目	診断総論 疾患総論	整形外科的現症の取り方,検査 感染症,関節リウマチ
第5週目	疾患総論	慢性関節疾患(退行性,代謝性)、循環障害と阻血壊死性疾患 先天性骨系統疾患,先天異常症候群,代謝性骨疾患
第6週目	疾患総論 外傷学	骨腫瘍,軟骨腫瘍,神経・筋疾患 外傷概論,軟部組織損傷,骨折・脱臼,脊椎・脊髄損傷
第7週目	治療・外傷・疾患各論	肩関節
第8週目	治療・外傷・疾患各論	肘関節,手関節と手、頸椎,胸郭
第9週目	治療・外傷・疾患各論	頸椎,胸郭、胸椎,腰椎
第10週目	治療・外傷・疾患各論	胸椎,腰椎、股関節
第11週目	治療・外傷・疾患各論	股関節
第12週目	治療・外傷・疾患各論	膝関節
第13週目	治療・外傷・疾患各論	膝関節、足関節と足
第14週目	治療・外傷・疾患各論 治療・外傷学	足関節と足 末梢神経損傷
第15週目	スポーツと整形外科 まとめ	スポーツ障害,障がい者スポーツ まとめ(検査実技など)
備考	講義の進行状況などにより内容が変更される可能性があります。	

令和2年度 シラバス

科目名	神経内科学	講義	(30)時間	前期	第Ⅱ学科2学年	講師	中村 正孝
実務経験	医師として19年以上の実務経歴あり						
到達目標	神経内科疾患の病態生理・症状・治療を理解する。						
履修上の注意	復習は各自で行うこと。教科書と配布プリントを授業に持ってくること。						
成績評価方法	試験100%						
教科書	神経内科学テキスト						
参考書	特になし						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	総論1	神経内科総論、中枢の解剖
第2週目	総論2	診断学
第3週目	総論3	検査
第4週目	各論1	脳血管障害
第5週目	各論2	神経変性疾患、脱髄疾患
第6週目	各論3	末梢神経疾患、筋疾患、神経筋接合部疾患
第7週目	各論4	全身疾患に伴う神経障害、中毒
第8週目	各論5、まとめ	機能的疾患、認知症、まとめ
第9週目		
第10週目		
第11週目		
第12週目		
第13週目		
第14週目		
第15週目		
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	精神医学	講義	(30)時間	後期	第Ⅱ学科2学年	講師	赤津 隆夫
実務経験	医師として17年以上の実務経験あり						
到達目標	精神医学の概要の理解 主要症状、主要疾患の理解						
履修上の注意	毎回小テストを配布するので、それで復習して下さい						
成績評価方法	100% 筆記テスト(客観テスト)						
教科書	各項目毎に配布するプリント						
参考書	精神医学(標準理学療法学・作業療法学)						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	分類・症候論Ⅰ	精神疾患の分類・症状・検査
第2週目	分類・症候論Ⅱ	
第3週目	統合失調症Ⅰ	統合失調症の診断・症状・治療
第4週目	統合失調症Ⅱ	
第5週目	気分障害Ⅰ	気分障害の診断・症状・治療
第6週目	気分障害Ⅱ	
第7週目	神経症Ⅰ	精神分析・神経症の診断症状治療
第8週目	神経症Ⅱ	
第9週目	小児期精神疾患Ⅰ	小児期・青年期の精神障害
第10週目	小児期精神疾患Ⅱ	
第11週目	睡眠関連障害	睡眠の機構、睡眠障害
第12週目	物質関連傷害	物質関連傷害
第13週目	器質性精神障害Ⅰ	症状性精神疾患、器質性精神疾患、認知症
第14週目	器質性精神障害Ⅱ	
第15週目	てんかん	てんかんとてんかん発作の分類・治療
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	小児科学	講義	(30)時間	後期	第Ⅱ学科2学年	講師	田 麗
実務経験	医師として9年以上の実務経験あり						
到達目標	1. 正常小児の成長発達を理解する。 2. 未熟児、新生児の病態を理解する。 3. 小児疾患の特性および病態を理解する。 4. 重症心身障がい児の特性と療育について理解する。						
履修上の注意	授業の出席						
成績評価方法	筆記試験						
教科書	学校の指定の教科書						
参考書	無						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	小児科学概論①	小児は、各段階での成長、発育と発達の特徴；成長に当って必要な栄養素及び摂取を理解する。
第2週目	小児科学概論② 診断と治療の概要	①新生児マスキングの重要性を理解する； ②小児の診察と治療の特徴を理解する。
第3週目	新生児・未熟児疾患	①胎児から新生児までの各段階の定義を熟知すること。 ②新生児の特有問題を理解する。
第4週目	先天異常と遺伝病①	遺伝に関する基礎知識を熟知すること； 近年の研究によって新たな知見を理解する。
第5週目	先天異常と遺伝病②	幾つかの染色体異常疾患と代謝異常疾患を理解すること。
第6週目	神経・筋・骨系疾患①	急性神経の感染症と先天性神経疾患を理解すること。
第7週目	神経・筋・骨系疾患②	痲痺の特徴と脳性まひを理解すること。
第8週目	神経・筋・骨系疾患③	①発達障害に関する基礎知識を理解すること； ②筋肉障がい疾患を理解する。
第9週目	循環器疾患、呼吸器疾患	先天性心疾患の特徴を理解すること； 小児の呼吸器疾患の特徴を理解すること。
第10週目	感染症	小児感染症の特徴を理解すること。
第11週目	消化器疾患、内分泌・代謝疾患	小児の特有消化器疾患を理解すること； 内分泌疾患と代謝障害を理解すること。
第12週目	血液疾患、免疫・アレルギー・膠原病	①血液に関する基礎知識と小児血液疾患の特徴 ②免疫の基本とアレルギーの本質を理解する。
第13週目	泌尿器・生殖器疾患、腫瘍	①泌尿器の基礎知識と小児に発症の多い疾患； ②小児特有の腫瘍を理解する。
第14週目	習癖・睡眠障害・心身症、重症心身障がい児・眼科・耳鼻科	①小児の成長の段階でよく見られる習癖など； ②重症心身障がい児に対して理解する。 ③小児期に発生しやすい眼や耳などの疾患に対する理解をする。
第15週目	期末テストの回答	全員で復習問題を解く。
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	脳神経外科学	講義	(30)時間	前期	第Ⅱ学科2学年	講師	中村 正孝
実務経験	医師として19年以上の実務経歴あり						
到達目標	脳神経外科疾患の病態生理・症状・治療を理解する。						
履修上の注意	復習は各自で行うこと。教科書と配布プリントを授業に持ってくること。						
成績評価方法	試験100%						
教科書	標準脳神経外科学						
参考書	特になし						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	総論1	脳神経外科総論、解剖、症候学
第2週目	総論2	検査、症候学
第3週目	各論1	脳腫瘍
第4週目	各論2	脳血管障害
第5週目	各論3	頭部外傷、先天奇形
第6週目	各論4	神経皮膚症候群、水頭症、機能的脳神経外科
第7週目	各論5	脊髄疾患、末梢神経疾患
第8週目	各論6、まとめ	機能性疾患、認知症、まとめ
第9週目		
第10週目		
第11週目		
第12週目		
第13週目		
第14週目		
第15週目		
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	病態運動学	演習	(60)時間	前期	第Ⅱ学科2学年	講師	森 輝
実務経験	理学療法士として10年以上の実務経験あり						
到達目標	正常動作を理解したうえで、異常動作の観察や記述、原因の考察ができるようになる。						
履修上の注意	運動学で学んだ知識について復習しておくこと。						
成績評価方法	課題レポート30%、学科試験70%						
教科書	実践 運動学分析(医歯薬出版)						
参考書	その他の配布資料						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	運動学の復習	臨床における動作観察に必要な運動力学に関する知識
第2週目	動作観察・分析の進め方	動作分析の目的、逸脱動作及び代償動作とその見分け方
第3週目	寝返り動作	バイオメカニクスと異常動作
第4週目	起き上がり動作	バイオメカニクスと異常動作
第5週目	立ち上がり動作	バイオメカニクスと異常動作
第6週目	立ち上がり動作	バイオメカニクスと異常動作
第7週目	歩行	バイオメカニクスと異常動作
第8週目	歩行	バイオメカニクスと異常動作
第9週目	疾患別の動作分析	運動器疾患における動作分析
第10週目	疾患別の動作分析	運動器疾患における動作分析
第11週目	疾患別の動作分析	運動器疾患における動作分析
第12週目	疾患別の動作分析	脳血管疾患における動作分析
第13週目	疾患別の動作分析	脳血管疾患における動作分析
第14週目	疾患別の動作分析	その他の疾患における動作分析
第15週目	まとめ	総復習
備考	特記事項なし	

令和2年度 シラバス

科目名	理学療法基礎演習Ⅱ	演習	(30)時間	後期	第Ⅱ学科2学年	講師	久保 けい子 専任教員
実務経験	久保教員: 理学療法士として12年以上の実務経験あり 専任教員: 理学療法士として5年以上の実務経験あり						
到達目標	実習における基本的知識・技能の習得 自分で考えて行動が出来、かつ自己管理能力を身に付ける						
履修上の注意	欠席者1コマ減点5 忘れ物1つにつき減点1 欠席届未提出者試験受験不可						
成績評価方法	授業態度出席状況20% 筆記試験80%						
教科書	臨床技能とOSCE 理学療法評価学						
参考書	必要に応じてプリント配布						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	リスク管理コミュニケーション技法/ ホットパック・三角巾実施(机上)	転倒予防/点滴・カテーテルにおけるリスク管理 臨床におけるコミュニケーション ホットパック三角巾実施の基礎知識
第2週目	国試対策	1～4章 骨関節靭帯筋 問題を解く
第3週目	コミュニケーション技法 バイタル測定(実技)(実技)	ケイシーと靴 実習に準ずる準備をする 北館3階
第4週目	ホットパック/三角巾実施(実技)	ケイシーと靴 実習に準ずる準備をする 北館3階
第5週目	下肢装具と車椅子 移乗介助の 基礎知識 (机上)	下肢装具と車椅子に関する基礎知識の習得
第6週目	国試対策	1～4章 骨関節靭帯筋 間違えた箇所 教科書で補填
第7週目	歩行補助具の調整 評価 表P394～P397	ケイシーと靴 実習に準ずる準備をする 本館4階 ※日直装具準備
第8週目	車いす駆動介助(実技)	ケイシーと靴 実習に準ずる準備をする 本館4階 車椅子各班に1台準備しておく
第9週目	移乗介助(実技)	ケイシーと靴 実習に準ずる準備をする 本館4階 車椅子各班に1台準備しておく
第10週目	移乗介助(実技)	ケイシーと靴 実習に準ずる準備をする 本館4階 車椅子各班に1台準備しておく
第11週目	国試対策	上下肢運動学 歩行 姿勢
第12週目	国試対策	神経 感覚受容器 循環器 呼吸器
第13週目	国試対策	消化と吸収 泌尿器 代謝
第14週目	国試対策	ホルモン 発生組織
第15週目	国試対策	教科書で補填 間違えた箇所のやり直し
備考	基礎演習筆記試験時 ケイシー等忘れないよう各自注意	

令和2年度 シラバス

科目名	理学療法評価学Ⅲ	演習	(30)時間	後期	第Ⅱ学科2学年	講師	門脇 辰弥
実務経験	理学療法士として8年以上の実務経験あり						
到達目標	神経学的検査の理解と実技の習得						
履修上の注意	実技を行う場合は半袖、短パンを着用しておくこと						
成績評価方法	学科試験(中間・期末)、実技試験						
教科書	ベッドサイドの神経の診かた(南山堂)						
参考書	理学療法評価学(金原出版株式会社)						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	腱反射・病的反射	腱反射・表在反射・病的反射
第2週目	感覚検査	表在感覚、深部感覚、複合感覚
第3週目	反射、感覚検査	実技
第4週目	脳神経	嗅神経、視神経、動眼神経、滑車神経、外転神経、三叉神経、顔面神経、聴神経、舌咽神経、迷走神経、副神経、舌下神経
第5週目	中間テスト	
第6週目	小脳機能	運動失調
第7週目	小脳機能	小脳障害
第8週目	運動機能	不随意運動、筋緊張、受動運動による徴候
第9週目	運動機能	歩行の異常、検査
第10週目	痛みの評価	疼痛の検査、VAS
第11週目	精神状態の評価	意識障害、認知機能
第12週目	運動麻痺の検査	運動麻痺、片麻痺
第13週目	不随意運動の検査	不随意運動とは
第14週目	実技	腱反射・感覚検査
第15週目	実技	腱反射・感覚検査
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	理学療法評価学Ⅳ (整形外科)	演習	(30)時間	後期	第Ⅱ学科2学年	講師	中野 友喜
実務経験	理学療法士として11年以上の実務経験あり						
到達目標	運動器に発生する障害を理解し、適切な検査項目を挙げ、その意味・意義を理解して実施できる						
履修上の注意	指示がある時のみジャージ着用						
成績評価方法	筆記試験						
教科書	整形外科的検査 プリント						
参考書	標準整形外科学(医学書院)、理学療法評価学 改訂第6版(金原出版)						

週 数	項目	授業内容
第1週目	オリエンテーション・整形外科とは	整形外科学検査とは
第2週目	整形外科学検査	頭部:頸部
第3週目	整形外科学検査	頭部:頸部
第4週目	整形外科学検査	体幹
第5週目	整形外科的検査	体幹
第6週目	整形外科的検査	肩関節
第7週目	整形外科的検査	肩関節
第8週目	整形外科的検査	肘関節・手関節
第9週目	整形外科的検査	肘関節・手関節
第10週目	整形外科疾患検査	股関節
第11週目	整形外科疾患検査	膝関節
第12週目	整形外科疾患検査	膝関節
第13週目	整形外科学検査	足関節
第14週目	まとめ	まとめ
第15週目	テスト対策	テスト対策
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	運動療法学	演習	(30)時間	前期	第Ⅱ学科2学年	講師	西村 正
実務経験	理学療法士として10年以上の実務経験あり						
到達目標	理学療法における運動療法の基礎知識の理解 理学療法における、代表疾患に対する運動療法を理解し、専門領域への導入をはかること。						
履修上の注意	座学・実技を交える。						
成績評価方法	試験(80%)・提出物(20%)・受講態度(遅刻、早退:0.5点 欠席:1点 減点)						
教科書	運動療法学 総論 医学書院						
参考書	都度、配布						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	運動療法概念	運動療法の歴史 運動療法の定義・目的・対象疾患
第2週目	運動療法基礎	関節の構造と運動 随意運動と運動制御
第3週目	運動療法基礎	関節の構造と運動 随意運動と運動制御
第4週目	運動療法基礎	関節の構造と運動 随意運動と運動制御
第5週目	運動の種類	運動をおこす力による分類、筋収縮の様式による分類
第6週目	運動の種類	運動をおこす力による分類、筋収縮の様式による分類
第7週目	基本的な運動療法	I 関節可動域運動
第8週目	基本的な運動療法	I 関節可動域運動
第9週目	基本的な運動療法	II 筋力増強運動
第10週目	基本的な運動療法	II 筋力増強運動
第11週目	基本的な運動療法	III 持久力増強運動
第12週目	基本的な運動療法	III 持久力増強運動
第13週目	基本的な運動療法	IV 協調性運動
第14週目	基本的な運動療法	IV 協調性運動
第15週目	講義まとめ	講義復習
備考	実技時:ジャージ着用 装飾品外すこと. 講義の進行程度によって、上記予定を変更することがある。	

令和2年度 シラバス

科目名	義肢装具学 I	演習	(30)時間	前期	第Ⅱ学科2学年	講師	金島 理恵
実務経験	理学療法士として7年以上の実務経験あり						
到達目標	上肢装具、下肢装具、体幹装具について理解する。各疾患に適応する装具について理解する。						
履修上の注意	義肢装具学は国家試験の出題割合が高い科目です。						
成績評価方法	定期試験(100%)						
教科書	理学療法テキスト 装具学 中山書店						
参考書	義肢装具のチェックポイント 医学書院						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	装具の分類	装具の目的分類
第2週目	頸椎装具	SOMIブレース、ハローベストなど
第3週目	胸腰仙椎装具	ジュエット、スタインドラーなど
第4週目	上肢装具	アームスリング、肩外転装具など
第5週目	下肢装具①	プラスチックおよび両側金属支柱付き短下肢装具
第6週目	下肢装具②	膝装具・免荷装具・長下肢装具
第7週目	側弯装具①	側弯装具(ミルウォーキー、アンダーアーム)
第8週目	中間試験	試験範囲: 第1週～第7週
第9週目	整形外科疾患装具	整形外科疾患(腱板損傷等)の装具について
第10週目	グループ発表	小児装具、末梢神経装具について
第11週目	グループ発表	小児装具、末梢神経装具について
第12週目	グループ発表	小児装具、末梢神経装具について
第13週目	小児装具①	ペルテス、先天性股関節脱臼の装具
第14週目	小児装具②	脳性麻痺、筋ジストロフィーの装具
第15週目	末梢神経損傷装具	正中神経・橈骨神経・尺骨神経麻痺の装具
備考	上記はあくまで予定(目安)であり、内容については変更になる可能性がある。	

令和2年度 シラバス

科目名	義肢装具学Ⅱ	演習	(30)時間	後期	第Ⅱ学科2学年	講師	金島 理恵
実務経験	理学療法士として7年以上の実務経験あり						
到達目標	切断の概要、義足ソケットの種類、異常歩行について学ぶ。						
履修上の注意	義肢装具学は国家試験の出題割合が高い科目です。						
成績評価方法	小テスト 中間試験 定期試験 講義態度 出席状況						
教科書	義肢装具学のチェックポイント(医学書院)						
参考書	理学療法テキスト 義肢学 中山書店						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	義肢学総論①	切断術について(切断者の現況、切断部位、原因疾患など)
第2週目	義肢学総論②	幻肢、幻肢痛について
第3週目	義足の構造	構成要素、種類
第4週目	大腿義足ソケットについて①	ソケットの分類(機能・形状による分類)
第5週目	大腿義足ソケットについて②	四辺形ソケットについて
第6週目	大腿義足ソケットについて③	坐骨収納型ソケットについて
第7週目	下腿義足ソケットについて①	ソケットの分類(機能・形状による分類)
第8週目	下腿義足ソケットについて②	PTBソケット・PTSソケット
第9週目	下腿義足ソケットについて③	KBMソケット・TSBソケット
第10週目	中間試験	試験範囲:切断の概要、義足の構造、ソケットについて
第11週目	アライメントについて	ベンチアライメント、スタティックアライメント、ダイナミックアライメント
第12週目	異常歩行について①	大腿義足における異常歩行①
第13週目	異常歩行について②	大腿義足における異常歩行②
第14週目	異常歩行について③	下腿義足における異常歩行
第15週目	まとめ	国家試験過去問題、定期試験範囲について
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	日常生活活動学	演習	(30)時間	後期	第Ⅱ学科2学年	講師	久保 けい子
実務経験	理学療法士として12年以上の実務経験あり						
到達目標	福祉住環境コーディネーター2級資格取得相当の知識の習得/退院後を見据えた日常生活指導が出来る						
履修上の注意	教科書福祉住環境コーディネーター2級テキスト/ADL教科書/国試対策プリント 3点セットで必ず持参						
成績評価方法	学科試験90% 小テスト10% 授業態度不良者/課題未提出者教科書忘れ減点あり						
教科書	教科書福祉住環境コーディネーター2級テキスト/ADL						
参考書	なし 必要時プリント配布						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	ADLとは総論と評価	ADLとは 講義の進め方と国家試験について 評価方法の種類
第2週目	★ADL評価種類/国試実践	ADLの評価種類と内容 国試問題の傾向をつかむ
第3週目	住環境整備における基礎知識	福祉住環境整備の実践/相談援助の考え方と環境調整の進め方
第4週目	疾患別ADL 片麻痺	片麻痺のADLと住宅改修のポイント
第5週目	疾患別ADL 脊損	脊損のADLと住宅改修のポイント
第6週目	疾患別ADL パーキンソン病	パーキンソン病のADLと住宅改修のポイント
第7週目	疾患別ADL 神経筋疾患	神経筋疾患のADLと住宅改修のポイント
第8週目	疾患別ADL 認知症/統合失調症	認知症/統合失調症のADLと住宅改修のポイント
第9週目	疾患別ADL 脳性麻痺	脳性麻痺のADLと住宅改修のポイント
第10週目	疾患別ADL 呼吸器心疾患	呼吸器心疾患のADLと住宅改修のポイント
第11週目	疾患別ADL 関節リウマチ	RAのADLと住宅改修のポイント
第12週目	疾患別ADL 人工関節全置換術/下肢骨折	下肢骨折/術後のADLと住宅改修のポイント
第13週目	回復期/在宅におけるADL指導	回復期/在宅におけるADL指導 住宅改修のポイント 家屋調査
第14週目	これまでの復習①	国試試験対策
第15週目	これまでの復習②	国試試験対策
備考	福祉住環境コーディネーター2級申し込み希望者は9月中に希望聴取/集金(6600円)し団体申し込みします	

令和2年度 シラバス

科目名	脳血管障害理学療法学 演習 (60)時間 後期 第Ⅱ学科2学年 講師 吉田 弘利
実務経験	理学療法士として10年以上の実務経験あり
到達目標	脳血管障害後片麻痺患者に対する基本的な理学療法の考え方を理解する。
履修上の注意	私語など他者の迷惑になる行為。
成績評価方法	試験(小テスト授業中に数回:20%・定期試験:70%)・提出物(10%),欠席(-10点/日)
教科書	15レクチャーシリーズ理学療法テキスト 神経障害 理学療法学Ⅰ 中山書店
参考書	適時配布資料あり

週 数	項 目	授業内容
第1週目	第1章 中枢神経系理学療法の基本知識	総論/中枢神経系の構造と基礎知識 脳血管障害後片麻痺患者の運動障害の特徴(1)総論
第2週目	第2章 運動と感覚の中枢機能と構造	基本的な解剖知識と病巣と症状の関連性 脳血管障害後片麻痺患者の運動障害の特徴(2)
第3週目	第3章 脳損傷の定義と病態	脳血管障害の分類(NINDS-Ⅲ)による病態説明 脳血管障害後片麻痺患者の運動障害の特徴(3)
第4週目	第4章 脳損傷とその回復	脳血管障害後の機能回復の特徴 脳血管障害後片麻痺に対する評価 イントロダクション
第5週目	第5章 脳血管障害における医学管理	脳血管障害に対する急性期治療 脳血管障害後片麻痺に対する評価 動作観察
第6週目	第6章 脳血管障害におけるリハビリテーションの流れ	脳血管障害リハビリテーションの流れ 脳血管障害後片麻痺に対する評価 動作分析
第7週目	第7章 脳血管障害後片麻痺患者の運動障害の特徴	脳血管障害後片麻痺患者に生じる[身体構造と機能] 筋緊張/随意運動制御/バランス能力/代償運動など
第8週目	第8章 脳血管障害後片麻痺患者に対する評価(1)	脳血管障害患者を理解する前に ICFに基づく障害理解 意識障害・総合評価・ADL評価など (脳卒中ガイドライン説明)
第9週目	第9章 脳血管障害片麻痺患者に対する評価(2)	評価の実際 姿勢分析 バランス評価/歩行評価
第10週目	第10章 脳血管障害後片麻痺患者に対するトレーニング(1)	脳血管障害後片麻痺患者に対するトレーニング概略 脳血管障害後片麻痺患者に対する課題指向型トレーニング
第11週目	第11章 脳血管障害後片麻痺患者に対するトレーニング(2)	脳血管障害後片麻痺患者に対するトレーニング 寝返り・起き上がり 脳血管障害後片麻痺患者に対するトレーニング 座位・立ち上がり
第12週目	第12章 脳血管障害後片麻痺患者に対するトレーニング(3)	歩行障害概要 歩行トレーニングの実際
第13週目	第13章 脳血管障害における合併症	脳血管障害による肩関節痛 脳血管障害による中枢性疼痛(視床痛)
第14週目	第14章 高次脳機能障害と理学療法	高次脳機能障害 pusher現象・半側空間無視・病態失認・失語など
第15週目	第15章 脳血管障害における理学療法の実際	症例から学ぶ理学療法の実際 最終講義まとめ
備考	日程については、講義の進捗度合いによって、上記予定を変更することがあります。	

令和2年度 シラバス

科目名	骨関節疾患理学療法学 演習 (30)時間 前期 第Ⅱ学科2学年 講師 久保 けい子
実務経験	理学療法士として12年以上の実務経験あり
到達目標	整形外科疾患に対する理解と適切な理学療法プログラムを立案できる
履修上の注意	各講義後に必ず見直しをすること 各講義時間前確認テストあり(前回講義分)
成績評価方法	筆記試験(90%) 小テスト(10%) 出席状況・態度(減点加算あり)
教科書	運動器障害 理学療法学Ⅰ/Ⅱ
参考書	適宜プリント

週 数	項 目	授業内容
第1週目	組織再生・修復 1・2章	組織再生と修復の理解 炎症の評価と理学療法実施上の注意点を理解する
第2週目	骨折と脱臼総論～治療 3・4章	骨折と脱臼の病態・合併症の理解 骨折のリスク管理とADL指導の理解
第3週目	高齢者の骨折 5～7章★	高齢者の骨折における発生機序・治療・リスク管理・ADL指導の理解
第4週目	変形性股・膝関節症 8～11章★	変形性関節症の病態・各病期の理解 病気に応じた適切な治療の理解
第5週目	関節リウマチ 12・13章	RA・特定疾患の理解と評価・治療・ADL指導とリスク管理の理解
第6週目	末梢神経障害 14・15章	病態・原因・神経走向・評価～治療の理解
第7週目	I部小テストとまとめ	★印を中心にI部テキストのおさらい テスト
第8週目	頸部疾患総論～治療 16・17章★	頸部疾患の病態理・症状・評価～治療・リスク管理の理解
第9週目	腰部疾患総論～治療 18・19章★	腰部疾患の病態理・症状・評価～治療・リスク管理の理解
第10週目	脊椎疾患総論～治療 20・21章	術式の理解と術式に応じた評価～治療・リスク管理・禁忌事項の理解
第11週目	肩関節疾患総論～治療 22～25章★	肩関節疾患における特徴・発生機序・治療・リスク管理・ADL指導の理解
第12週目	膝靭帯半月板損傷総論～治療 26～28章	靭帯半月板損傷における特徴・発生機序・治療・リスク管理・ADL指導の理解
第13週目	捻挫と肉離れ総論～治療 29・30章	スポーツ外傷における特徴・発生機序・治療・リスク管理・ADL指導の理解
第14週目	II部小テストとまとめ	★印を中心にII部テキストのおさらい テスト
第15週目	I・II まとめ	テスト対策 国家試験対策
備考	変更の可能性あり	

令和2年度 シラバス

科目名	神経・筋疾患理学療法学	演習	(30)時間	後期	第Ⅱ学科2学年	講師	西村 正
実務経験	理学療法士として10年以上の実務経験あり						
到達目標	主要な神経筋疾患の障害特性を理解し、その障害評価と機能・能力障害に対する運動療法を理解する。						
履修上の注意	講義を中心に、必要に応じて実技を実施する。						
成績評価方法	課題(小テストなど) 試験(60%) 出席状況(減点⇒欠席:2点 遅刻:1点) によって決定する						
教科書	系統理学療法学 神経障害系理学療法学(医歯薬出版)						
参考書	特になし						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	神経・筋疾患について 概論	神経系、障害部位について
第2週目	変性疾患(ALS)	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解。
第3週目	変性疾患(パーキンソン病)	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解。
第4週目	小脳疾患	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解。
第5週目	脱髄疾患 (多発性硬化症)	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解。
第6週目	脱髄疾患 (ギランバレー症候群)	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解。
第7週目	末梢神経疾患 (ニューロパチー)	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解。
第8週目	神経筋接合部疾 (重症筋無力症)	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解。
第9週目	まとめテスト	中間試験
第10週目	筋疾患(筋ジストロフィー)	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解。
第11週目	筋疾患 (多発性筋炎、皮膚筋炎)	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解。
第12週目	脳血管障害	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解。
第13週目	脳血管障害	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解。
第14週目	その他疾患	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解。
第15週目	まとめ	実技
備考	内容変更の可能性あり。	

令和2年度 シラバス

科目名	脊髄損傷理学療法学	演習	(30)時間	後期	第Ⅱ学科2学年	講師	音頭 善勝
実務経験	理学療法士として20年以上の実務経験あり						
到達目標	脊髄の損傷レベルにおける残存機能や可能なADL、必要な評価・治療について説明できる。						
履修上の注意	脊髄及び脊髄神経に関する解剖を復習しておくこと。						
成績評価方法	定期試験80%、小テスト・授業態度20%						
教科書	脊髄損傷の理学療法 第3版 医歯薬出版						
参考書	国試及び模試の過去問題						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	脊髄損傷の基礎知識	脊髄の解剖
第2週目		解剖の復習、脊髄損傷の原因、死亡率と死因
第3週目	理学療法評価	概説、不全損傷と完全損傷
第4週目		自律神経、痙性麻痺、褥瘡、座位バランス
第5週目	呼吸理学療法	急性期の理学療法、人工呼吸器による呼吸管理、呼吸の評価、呼吸練習
第6週目		体位排痰法、吸引操作、胸郭拡張練習、Skin Lolling
第7週目	理学療法(治療指導)	治療指導、理学療法の目的、理学療法プログラム
第8週目		急性期における理学療法、回復初期～後期における理学療法
第9週目		回復期後の理学療法、手術療法後の理学療法プログラム
第10週目	車椅子処方と練習	練習と開始時期、処方について
第11週目	精神心理と排尿・尿路障害、性機能障害	障害受容とその過程に及ぼす心理的な要因 排尿の生理と管理、性機能障害と援助
第12週目	スポーツ	障害区分と主なスポーツ
第13週目	自動車運転	運転に必要な条件、運転操作と補助装置、注意点等
第14週目	復習・試験対策	解剖～治療までを復習する。 定期試験を想定した問題を行い、解説を行う。
第15週目	復習・試験対策	解剖～治療までを復習する。 定期試験を想定した問題を行い、解説を行う。
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	小児疾患理学療法学	演習	(30)時間	後期	第Ⅱ学科2学年	講師	出口 修平
実務経験	理学療法士として10年以上の実務経験あり						
到達目標	小児疾患の理解を深め、臨床像をイメージする。代表疾患に関しては国家試験レベルの知識を学ぶ。						
履修上の注意	メリハリのある授業にします、講義は静かに聞いてください。活発なディスカッションを行いましょう。						
成績評価方法	学科試験100%						
教科書	イラストでわかる小児理学療法学						
参考書	脳性麻痺児の家庭療育						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	オリエンテーション	自己紹介
第2週目	小児疾患について	代表的疾患について学ぼう
第3週目	脳性麻痺総論	PVL、頭部外傷など
第4週目	脳性麻痺Ⅰ	痙直型タイプ(四肢麻痺)
第5週目	脳性麻痺Ⅱ	痙直型タイプ(両麻痺)
第6週目	脳性麻痺Ⅲ	アトーゼ型
第7週目	脳性麻痺Ⅳ	片麻痺、頭部外傷による脳障害
第8週目	ダウン症	ファロー4徴候
第9週目	筋ジストロフィーⅠ	デシャンヌ型、仮性肥大など
第10週目	筋ジストロフィーⅡ	福山型、厚労省ステージ分類、その他
第11週目	二分脊椎	脊髄髄膜留
第12週目	重度呼吸障害児	ポジショニング、呼吸リハ
第13週目	染色体異常	奇形や知的障害について
第14週目	動作分析Ⅰ	立ち上がり、トランスファー
第15週目	動作分析Ⅱ	歩行分析
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	呼吸障害理学療法学	演習	(30)時間	後期	第Ⅱ学科2学年	講師	森 輝
実務経験	理学療法士として10年以上の実務経験あり						
到達目標	呼吸器の解剖や各疾患の特徴、理学療法が理解できる。 その他、内部疾患(代謝障害、がん)についても概要とリハビリテーションを理解する。						
履修上の注意	呼吸器、腎臓、肝臓に関する解剖・生理を復習しておくこと。						
成績評価方法	定期試験100%						
教科書	新編 内部障害のリハビリテーション 第2版						
参考書	国試及び模試の過去問題						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	呼吸器の解剖・生理学、 呼吸機能・運動対応能検査について	呼吸器の解剖、生理学、評価について
第2週目	呼吸不全について	概要、症状、病態、疾患(COPD、IPなど)について
第3週目	呼吸リハビリテーション	呼吸リハビリテーションの概要、評価、プロセスについて
第4週目	呼吸リハビリテーション	呼吸リハビリテーションにおける運動療法、日常生活指導について
第5週目	人工呼吸器	人工呼吸器の役割、設定について
第6週目	まとめ・復習(呼吸機能障害)	テストとその解説にて理解度の確認、知識の整理を行う。
第7週目	糖尿病	糖尿病の概要について
第8週目	糖尿病	糖尿病に関するリハビリテーション、日常生活指導について
第9週目	糖尿病	糖尿病に関するリハビリテーション、日常生活指導について
第10週目	脂質異常	脂質異常の概要について
第11週目	まとめ・復習(糖尿病・脂質異常)	テストとその解説にて理解度の確認、知識の整理を行う。
第12週目	がん	がんの概要について
第13週目	がん	がんに関するリハビリテーション、日常生活指導について
第14週目	まとめ・復習(がん)	テストとその解説にて理解度の確認、知識の整理を行う
第15週目	復習・試験対策	呼吸器、脂質異常、がんについて復習する
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	心・末梢循環理学療法学 演習 (30)時間 前期 第Ⅱ学科2学年 講師 森 輝
実務経験	理学療法士として10年以上の実務経験あり
到達目標	循環器系の解剖・生理や代表的な疾患の病態及び評価、リハビリテーションについて理解を深める。
履修上の注意	心・末梢循環の基本的な解剖学や生理学について復習しておくこと。
成績評価方法	小テスト30%、定期テスト70%
教科書	新編 内部障害のリハビリテーション 第2版
参考書	配布資料

週 数	項 目	授業内容
第1週目	呼吸器の解剖・生理学、呼吸機能・運動対応能検査について	呼吸器の解剖、生理学、評価について教授する
第2週目	呼吸器の解剖・生理学、呼吸機能・運動対応能検査について	小テスト
第3週目	呼吸不全について	概要、症状、病態、疾患(COPD、IPなど)などを教授する
第4週目	循環機能障害の評価について	聴診、胸部X線写真について教授する (聴診の解説で弁膜症について触れる)
第5週目	循環機能障害の評価について	心電図(12誘導、モニター、ポルター)及び代表的な不整脈(VF、VT、Af、PAC、PVCなど)、ペースメーカーについて教授する
第6週目	循環機能障害の評価について	心エコー、運動負荷試験、その他の検査について教授する
第7週目	循環機能障害の評価について	小テスト
第8週目	心疾患について	虚血性心疾患の機序や症状、検査について教授する (急性冠症候群、狭心症、心筋梗塞)
第9週目	心疾患について	心不全の機序や症状、検査について教授する (急性心不全、慢性心不全)
第10週目	心疾患について	心筋症、成人先天性心疾患、大動脈疾患、高血圧、睡眠時無呼吸症候群について教授する
第11週目	心疾患について	小テスト
第12週目	心臓リハビリテーションについて	心臓リハビリテーションの概要について教授する(定義や目的、時期的区分、構成要素、適応・禁忌、運動処方、患者教育など)
第13週目	心臓リハビリテーションについて	心筋梗塞のリハビリについて教授する (急性期～維持期における運動療法や指導の考え方や留意点などをテキストを参照しながら解説する)
第14週目	心臓リハビリテーションについて	弁膜症、高血圧症、慢性心不全のリハビリについて教授する (運動療法や指導の考え方や留意点などをテキストを参照しながら解説する) ※時間が余れば症例提示を行う
第15週目	まとめ	復習・テスト対策
備考	特記事項なし	

令和2年度 シラバス

科目名	高齢者理学療法学	演習	(30)時間	後期	第Ⅱ学科2学年	講師	金島 理恵
実務経験	理学療法士として7年以上の実務経験あり						
到達目標	高齢者の身体的特性と疾患について学ぶ						
履修上の注意	座学と実技						
成績評価方法	筆記試験(5割)、個人発表(5割)						
教科書	高齢者の機能障害に対する運動療法 文光堂						
参考書	リハビリテーション医学(医歯薬出版)						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	高齢者の4大骨折	オリエンテーション・大腿骨頸部骨折
第2週目	高齢者の4大骨折	上腕骨近位端骨折・橈骨遠位端骨折・脊椎椎体圧迫骨折
第3週目	廃用症候群	廃用症候群の主な要因と症候
第4週目	高次脳機能障害	記憶障害、失行・失認・注意障害・遂行機能障害・認知症
第5週目	高齢者の認知機能	高齢者の認知的側面からみた運動介入
第6週目	高齢者の認知機能	二重課題(trail walking test・ストループ課題)
第7週目	高齢者の運動機能	筋機能・持久力・バランス能力の評価
第8週目	高齢者の運動機能	移動能力・敏捷能力・筋パワーの評価
第9週目	高齢者の身体特性	加齢による運動能力の変化
第10週目	高齢者の身体特性	加齢による障害(フレイル・サルコペニア・老年症候群)
第11週目	個人発表	各テーマについて調べ発表する。
第12週目	個人発表	各テーマについて調べ発表する。
第13週目	個人発表	各テーマについて調べ発表する。
第14週目	個人発表	各テーマについて調べ発表する。
第15週目	まとめ	試験対策
備考		